

巻 頭 言

人間力を鍛えよう！

安部 恵介

(九州産業大学・情報科学部教授)



情報科学部が設立されて既に 10 年が経過しました。この間に学生の置かれている状況は大きく変わったように感じられます。少子化、大学全入時代でさらにゆとり教育などもあり、高校まであまり厳しい競争もなく、比較的のんびり過ごしてきた学生が増えてきました。一方社会はグローバル化が進み、最近是新興国や近隣諸国の追い上げも激しく、日本は経済的にもますます厳しい競争にさらされています。

学生みなさんは、いわば高校までのぬるま湯から、大学を卒業するといきなり社会の激しい荒波にさらされるようなものであり、就職が上手いかわない、また就職してもすぐ辞めてしまう人が増えているのもある意味当然かもしれません。このような時代において大学生活は重要な役割を果たします。学生時代は人生のスタートラインといえます。これまでのぬるま湯から抜け出して、社会の荒波を乗り越えていける人間力を鍛えることが重要です。

まずは学生の本分である学業に専念することが重要ですが、さらに人間力を鍛えるために大切なことをいくつか以下に述べたいと思います。これらはキャリア支援センター運営委員として、企業の方からお聞きしたお話にも通じるものです。

(1) 基本的マナーを守る

基本的マナーは社会人としての常識です。これは単に言葉使いや礼儀作法だけでなく、他人に迷惑をかけない、自分の言動に責任を持つ、約束を守る等も含みます。これらは社会人として信頼を得るためにとても大切なことですので、学生時代にしっかりと身に付けてください。

(2) 努力を怠らない

社会では専門的な技術や知識だけでなく、コミュニケーション、協調性、積極性といった様々な能力が必要とされます。得意なものもあれば苦手なものもあるでしょう。長所を伸ばし、弱点を克服し、目標を達成するための努力が必要です。「どうせ駄目だろう」とあきらめてはいけません。「努力しなければ始まらない」今年話題となった AKB 総選挙での言葉です。いくら周りが助けようとしても、本人が努力しなければどうしようもありません。逆に努力を続ければ、やがては周囲も援助してくれるものです。

(3) 本気になる

九州産業大学 50 周年を記念して養老孟司先生の講演がありました。そこでは「本気になる」ということの大切さが説かれました。現代人は豊かな生活の中で、本気になることを忘れてきている。人間本気になれば思いもよらない力を発揮するものです。学生時代に本気で何かをやった、という経験は今後の人生を支えてくれる大きな力となるでしょう。

(4) 良い行いをする

企業また最近では大学でもコンプライアンスが重視されています。不正をしない、ということです。社会的にも影響の大きい情報技術は両刃の剣であり、そのため情報科学部では早くから情報技術者倫理を必修科目としています。厳しい競争の中ではともすれば忘れがちですが、とても大切なことですので、心に留めておいてください。また日常生活でも良い行いを心がけることにより、人間力が豊かになり、幸運も得られるでしょう。

他にもいろいろ大切なことはあるでしょうが、先人の教えや周囲の言葉に謙虚に耳を傾け、人間的にも大きく成長してください。